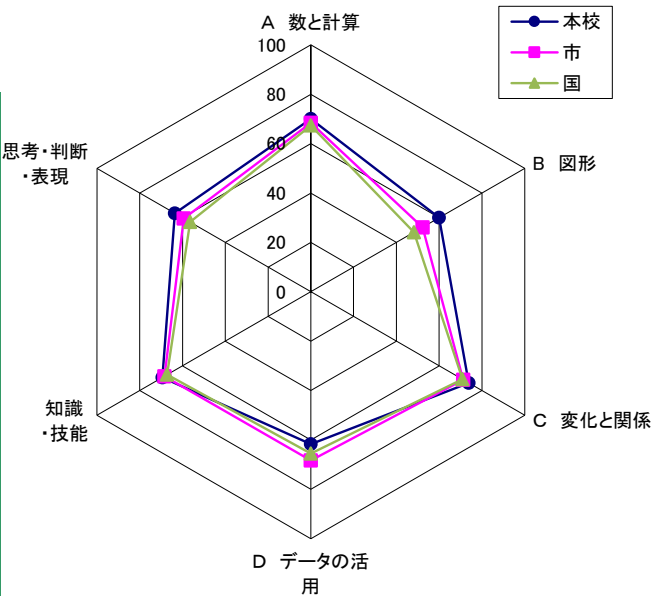


宇都宮市立西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	70.0	68.4	67.3
	B 図形	60.0	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	73.8	71.2	70.9
	D データの活用	61.7	68.3	65.5
観点	知識・技能	69.4	68.4	67.2
	思考・判断・表現	63.6	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	本校の平均正答率は、市の平均よりも1.6ポイント高い ○()を用いた式や加法と乗法の混合問題は身に付いている。 ●分配法則を用いた計算や「以上」の意味を理解した上での表の読み取りに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も、基本的な計算の定着に向けた計算スキルの向上の取り組みを継続していくとともに、習熟度別学習や少人数指導を生かして、個に応じた指導の充実を図る。 ・計算の方法について、話し合う活動を通して、筋道を立てて説明する力を系統的に育てるようにする。
B 図形	本校の平均正答率は、市の平均よりも7.8ポイント高い ○台形、正方形、正三角形の意味や性質を理解し回答することができている。	・図形の性質や構成要素の理解を更に深められるよう、具体物进行操作して図形を作成したり分解したりするなど、図形を認識する感覚が豊かになるような体験的活動を積極的に取り入れていく。 ・授業の中で個人やペア、グループ学習など授業形態を工夫すると共に、ICT機器を積極的に活用し、相手意識をもち、自分の考えを筋道を立てて分かりやすく、説明できる力の育成を図る。
C 変化と関係	本校の平均正答率は、市の平均よりも2.6ポイント高い ○伴なって変わる2つの数量について、表から変化の特徴を読み取ることができている。 ●伴なって変わる2つの数量が比例の関係にあることを用いて、立式することに課題が見られる。比例の理解に加え、双方の関係を読み取り、活用する力の育成を図っていく。	・日常生活の具体的な場面を想起する問題を扱うことで、児童自らが変化に伴う二つの数量を見出すことができるよう、類似問題に繰り返し取り組ませていく。 ・グラフに表すことによって、資料の特徴や傾向について捉えやすくなることに気付かせ、内容を正確に読み取る力の育成を図る。
D データの活用	本校の平均正答率は、市の平均よりも7.4ポイント低い ○図表を正しく読み取る力は身に付いている。 ●二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題が見られる。	・複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断できるようにするために、引き続き図表を正しく読み取る力を育成する。 ・図表と文の双方から条件に合う値を取捨選択できるようにするために、他教科においても、資料の読み取りにおいて丁寧に扱う。

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 22人

② 算数 22人

5 留意事項

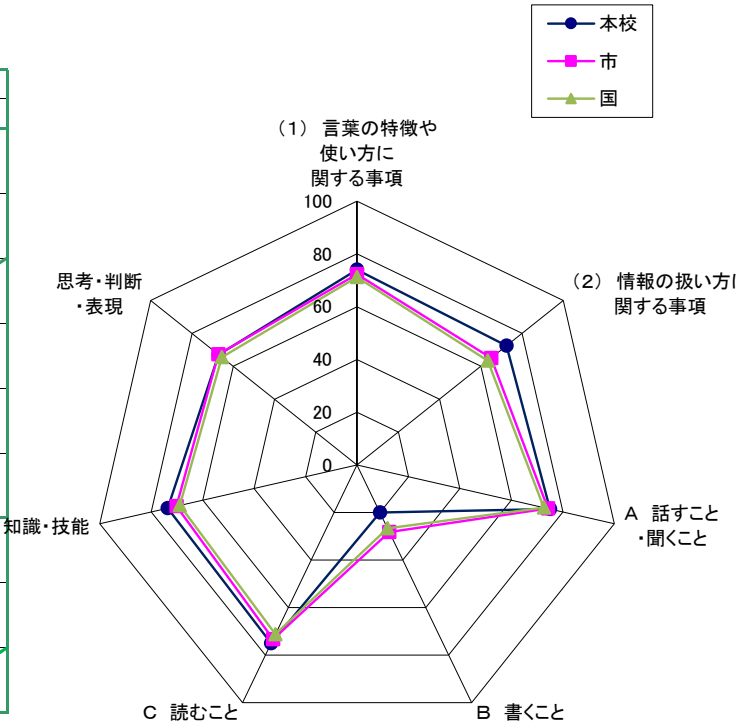
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	74.0	72.3	71.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	72.5	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	75.0	74.2	72.6
	B 書くこと	20.0	28.2	26.7
	C 読むこと	75.0	73.3	71.2
観点	知識・技能	73.6	70.2	68.9
	思考・判断・表現	67.1	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や 使いに関する事項	本校の平均正答率は、市の平均よりも1.7ポイント高い ○漢字の書き取りがよくできている。学校全体で読みや書きなどの基礎基本の定着に力を入れている成果であると考えられる。 ●敬語を理解して活用することに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も漢字の習得に向けた取り組みを継続すると共に、文章の中でも漢字や語句を正しく活用して書くことができるよう、個に応じた指導の充実を図る。 ・敬語について学習した後、場に応じた言葉遣いについて指導していくことで、日常生活の中で敬語を活用し、定着を図る。
(2) 情報の扱い方に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均よりも7.5ポイント高い ○目的に応じて文と図表を結びつけるなどして、必要な情報を書きぬくことができている。 ●自分の考えを筋道を立てて説明する力に課題が見られる。	・文と図表を関係付けて考える指導を継続していくと共に、児童が自分の考えを筋道を立てて説明できる力を身に付けさせる。 ・学習形態を工夫し、自分の考えを相手に伝えたり順序立てて話したりする活動を通して、自分の思いに気付き、相手に伝えたいという意欲をもたせ表現力を養うこととする。
A 話すこと・聞くこと	本校の平均正答率は、市の平均よりも0.8ポイント高い ○話し手が伝えたい事柄を聞く力が身に付いている。 ●話の中心を捉えて聞いたり設問したりする力に課題が見られる。	・話し手が言いたいことや話の中心を捉えて聞く力を育むために、話し合い活動を通して、相手が伝えたいことは何かを捉えて聞いたり、必要なことを質問したりして聞く場面を設定する。
B 書くこと	本校の平均正答率は、市の平均よりも8.2ポイント低い ●図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるよう工夫して書くことに課題が見られる。	・相手に伝わるように表現している、新聞記事や広告など、身の回りの物を例に実物に触れる体験を通して、目的意識や相手意識をもって書く意識付けを図る。 ・表現できる力の育成を図るために、学習形態の工夫やICT機器を活用するなど、児童が幅広く考えを共有し合える場を設定する。
C 読むこと	本校の平均正答率は、市の平均よりも1.7ポイント高い ○話し手の伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えて聞く力が身に付いている。 ●話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめて書くことに課題が見られる。	・正しく話の要点を捉える力を身に付けさせることに加え、問題と自分の考えを比較しながら、学校課題でもある自分の考えを表現する力の育成を図る。 ・話し合う学習を通して、理由を考えさせ筋道を立てて説明する力を低学年から段階的に身に付けることができるよう、学校全体で取り組んでいく。

宇都宮市立西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問では、当てはまると回答した割合が、県の平均を16.2%上回っている。昨年度、学校の取り組みとして特別活動における学級活動に力を入れ、児童が自分たちの学校生活をよりよくするという視点で課題意識をもたせ、それを解決することで得られる達成感や充実感により活動意欲が高まるようにしてきた成果であると考え。

○「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の質問では、肯定的な回答が100%であった。個に応じた指導について、引き続き少人数指導や教室内支援など多様な学習形態の中で苦手を克服し、達成感を味わえるように、継続して指導体制を整えていく。

○「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」質問では、

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていきますか」の質問では、86.4%が肯定的な回答で県の割合を3.7%上回っている。引き続き、話し合い活動に重点をおいて、授業の学習形態やICT機器の活用を工夫していく取り組みを継続していく。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問では、95%以上が肯定的な回答をしており、県の回答を上回っている。西地区大運動会やベストフェスタなどの参画経験を継続していく。

●自己肯定感が高い児童とそうでない児童が混在していることから、日々の学校生活の中で、成功体験を積み重ね、自信に繋げていけるように支援していく。

宇都宮市立西小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
個に応じた指導	○個に応じた指導 パワーアップタイムとして、朝の学習の時間に算数において少人数制での指導を継続している。	算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを求める問題について、全ての書く問題で、最後まで解答を書こうと努力した児童の割合が、県の割合を3.9%下回っていた。苦手を克服し達成感を味わえるよう、継続して個に応じた指導体制を整えていく。
話し合い活動の充実	○話し合い活動の充実 自分の考えを相手に伝えたり、友達の考えを自分と比べながら聞く時間を確保している。従来のペアやグループ学習から、タブレット端末を用いた意見交流や教師が児童同士のコーディネートをするなどして、各教科や単元に合わせて学習形態を工夫し、少人数から全体へと広めていけるようにしている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広めたりすることができる」の質問では、肯定的に回答している児童が86.4%であり県の割合を2.3%上回っている。今後も、引き続き、他者の意見と比べながらよりよく考える話し合い活動と各教科における話し合い活動の往還関係による、コミュニケーション力の育成を図る。
授業におけるまとめ・振り返りの充実	○授業におけるまとめ・振り返りの充実 授業では、見通しをもたせることで意欲の向上を図り、めあての確認、学んだことのまとめや振り返りを行うことで、学習を定着させるようにしている。また、自分の考えを分かりやすく書いたり、友達の考えから考えを深めたりできるような指導に努めている。	「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるか」の質問では、86.4%が肯定的に回答し、県の割合を6.8%上回っている。このことから、今年度の取り組みを継続しながら、授業で学んだことを他教科でも生かせる力の育成も図っていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを考察し文章で表現する力の育成 ・基礎基本の習得のための学習習慣の確立 ・コミュニケーション能力の育成 ・課題に対し、粘り強く取り組む姿勢の育成	・表現の仕方の練習と習得 ・宇都宮モデルの徹底 ・特別活動における指導 ・個に応じた指導	・各教科における見方・考え方を具体的に明示し、自分の考えを具体的に記述することができるよう支援する。また、学習形態を工夫し、共に取り組んだり、互いの意見を伝え合い、話し合ったりする活動を多く取り入れ、思考力や表現力を高めるよう工夫をする。 ・特別活動の話し合い活動に重点を置き、児童の自己肯定感を高めることで、自分の意見に自信をもち苦手や困難な課題に対しても根気強く取り組める態度の育成に努める。 ・習熟度別学習や少人数指導、パワーアップ学習等の個に応じた指導の継続。